

「新道路技術会議」の審査を経て、採択された技術研究開発の提案は以下の通り。

【政策領域 1：新たな行政システムの創造】

提案名および概要		提案者名
提案名	道路交通の時間価値についての研究	東京大学大学院 工学系研究科 准教授 加藤 浩徳
概要	道路交通時間価値の推定方法に関する国内外の研究動向ならびに運用状況を踏まえつつ、我が国の実情に即した道路交通時間価値の推定方法を検討する。また、我が国の実データを用いて、道路交通の時間価値設定のあり方について検討する。	

【政策領域 3：新たな情報サービスを創造し、利用者の満足度を向上させる】

提案名および概要		提案者名
提案名	ITS を考慮した 1.5 車線の道路整備の整備指針の研究開発	高知工科大学 地域 ITS 社会 研究センター長 教授 熊谷 靖彦
概要	1.5 車線の道路整備を計画するにあたって、道路交通の安全および円滑を図るため、道路や交通特性、或いはドライバー属性や地域特性、更には「走行支援システム」等の ITS を考慮した整備のあり方を検討するとともに、「交通流シミュレータ」による整備の事前、事後の評価ツールを開発する。	

提案名および概要		提案者名
提案名	複合データによる道路サービス・パフォーマンス情報システムの研究開発	筑波大学大学院 システム情報 工学研究科 教授 石田 東生
概要	路側観測による交通データとプローブカー調査データを融合し、従来よりも広域かつ高精度で多様な道路パフォーマンス情報を安価に提供可能なシステムを開発する。さらに、それを活用した政策支援アプリケーションについて提案する。	

【政策領域 4：コスト構造を改革し、道路資産の効率的な形成】

提案名および概要		提案者名
提案名	ひび割れ自己治癒技術の高度化とコンクリート床版の長寿命化	東京大学 准教授 岸 利治
概要	セメント系材料の化学反応を利用した能動的なひび割れ自己治癒技術を高度化し、これをコンクリート床版に適用することにより、疲労によって発生したひび割れを析出物により目詰まりさせ、疲労寿命を長期化させる技術を開発する。	

※新道路技術会議における審議の結果、採択条件として FS（フィージビリティ・スタディ）の実施が必要と判断された案件。

【政策領域 8：大切な道路資産の科学的な保全】

提案名および概要		提案者名
提案名	水分履歴を考慮した不飽和道路盛土の耐震性の評価法と強化法	京都大学 工学研究科 教授 岡 二三生
概要	豪雨や浸透水など水分履歴を考慮した道路盛土の耐震性の評価法および強化法の確立のため、各種地盤探査、不飽和土の実験的な研究、地震時の不飽和一飽和地盤の動的浸透－変形連成解析法の開発を実施する。	

提案名および概要		提案者名
提案名	鋼橋の腐食劣化メカニズムの解明と耐久性診断に関する研究	琉球大学 助教 下里 哲弘
概要	鋼橋の防錆防食の寿命予測法の提案するため、沖縄にて 30 年間曝露され腐食劣化した耐候性鋼橋に対して、構造部位別での腐食劣化度と ACM 腐食センサーを用いた環境調査により鋼橋の腐食劣化メカニズムを解明し、実環境と相似な環境における新腐食促進試験法を開発する。また、疲労と耐力試験の複合耐久性試験により実用的な鋼橋の耐久性診断法を提案する。	

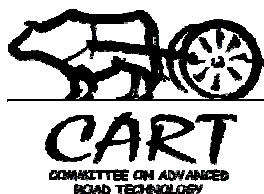
【政策領域 2、5、6、7、9、10については該当無し】

なお、採択された技術研究開発の提案については、新道路技術会議での審査時の審議内容に基づき、研究内容等の調整を行った上で、国土技術政策総合研究所の内規に基づく手続きを経て、平成 21 年度に委託契約を締結します（応募及び審査結果の概要、新道路技術会議委員については、参考を参照）。

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発～研究の募集～」の応募及び審査結果の概要

										【参考】									
		タイプⅠ 政策実現型		タイプⅡ 技術ブレイク スルー型		タイプⅢ 新政策領域 創造型		革新的研究調査 (FS)		合計		H20実績		H19実績		H18実績		H17実績	
		応募 (件)	採択 (件)	応募 (件)	採択 (件)	応募 (件)	採択 (件)	応募 (件)	採択 (件)	応募 (件)	採択 (件)	応募 (件)	採択 (件)	応募 (件)	採択 (件)	応募 (件)	採択 (件)	応募 (件)	採択 (件)
領域1	新たな行政システムの創造	1	1			1				2	1	1		2		10	1	8	2
領域2	経済・生活に活力を生む道路ネットワークを形成し、有効活用を図る	1		1		1		1		4		2		2		4	1	4	1
領域3	新たな情報サービスを創造し、利用者の満足度を向上させる	1	1	1	1					2	2	5	1	4		7		7	
領域4	コスト構造を改革し、道路資産の効率的な形成	1		3	1					4	1※	6	1	3		0		3	1
領域5	美しい景観と快適で質の高い道空間の創出	3		1				1		5		10	1	5		4		3	1
領域6	交通事故等から命を守る			1						1		3		6		4		5	1
領域7	災害時における対応をスピーディかつ的確に支援する	1		4				1		6		12	1※	5	2	6	1	5	
領域8	大切な道路資産の科学的な保全	2		10	2			1		13	2	14	1	8	1	5		11	2
領域9	沿道環境を改善し、良好な生活環境を創造する					1				1		5		5		6		8	
領域10	自然環境、地球環境の保全	1								1		3		2		6		5	
合計(件)		11	2	21	4	3	0	4	0	39	6	50	5	42	3	52	3	59	8

※新道路技術会議における審議の結果、採択条件としてFS(フィージビリティ・スタディ)の実施が必要と判断された案件を示す。



平成21年度 道路政策の質の向上に資する技術研究開発 研究の募集

産・学・官の連携を強化し、
「学」の知恵、「産」の技術を幅広い範囲で融合することにより、
道路政策の質の向上に資する技術研究開発の提案を、研究者の方々から広く募集します。

1. 応募方法

以下に示す「2. 政策領域」のいずれかに関するもの（複数領域に関するものも可）であって、「3. 公募タイプ」のいずれかに該当するものを、応募の対象とします（平成21年度の委託研究は2～5テーマ程度を予定しています）。

○応募方法

国土交通省 HP (<http://www.mlit.go.jp/road/tech/index.html>) から提案様式をダウンロードし、ご記入の上、印刷物と電子データ（CD-R 等）にて、下記期限までに、郵送で提出して下さい。

- ・ 提出期限：平成21年1月19日（月）（必着）
- ・ 提出先：〒100-8918 東京都千代田区霞が関二丁目一番三号
国土交通省道路局道路交通管理課 ITS 推進室
道路政策の質の向上に資する技術研究開発の募集係

○応募資格

下記に該当する研究機関及び研究者とします。

- ・ 国立試験研究機関等の国立機関
- ・ 大学等の教育機関（附属研究機関を含む）
- ・ 地方公共団体、国土交通省設置法第4条第28号の業務等を定める政令（平成12年政令第297号）第2条に規定する公共的団体及び日本下水道事業団等の公共的団体
- ・ 民法（明治29年法律第89号）第34条の規定により設立された法人
- ・ 新道路技術会議が委託研究を実施することが適当であると認めた学会及び業界を代表する協会
- ・ 公共事業を行う第三セクターのうち新道路技術会議が委託研究を実施することが適当であると認めた法人
- ・ その他、特に新道路技術会議が委託研究を実施することが適当であると認めた法人または個人
- ・ 上記の要件を満たす複数の研究者からなる共同研究体
- ・ ただし、道路特会からの支出を取り止める15法人については委託研究の契約機関から除外

2. 政策領域

募集する研究テーマは、道路分野における基礎的な要素技術から、総合的な応用技術までの幅広い技術研究開発を対象としています。

- ① 「新たな行政システムの創造」に関する技術研究開発
- ② 「経済・生活に活力を生む道路ネットワークを形成し、有効活用を図る」ための技術研究開発
- ③ 「新たな情報サービスを創造し、利用者の満足度を向上させる」ための技術研究開発
- ④ 「コスト構造を改革し、道路資産の効率的な形成」に関する技術研究開発
- ⑤ 「美しい景観と快適で質の高い道空間の創出」に関する技術研究開発
- ⑥ 「交通事故等から命を守る」ために必要な技術研究開発
- ⑦ 「災害時における対応をスピーディかつ的確に支援する」ために必要な技術研究開発
- ⑧ 「大切な道路資産の科学的な保全」に資する技術研究開発
- ⑨ 「沿道環境を改善し、良好な生活環境を創造する」ために必要な技術研究開発
- ⑩ 「自然環境、地球環境の保全」に関する技術研究開発

3. 公募タイプ

公募タイプ	タイプⅠ 政策実現型	タイプⅡ 技術ブレイクスルー型	タイプⅢ 新政策領域創造型
概要	現在の道路行政の重点課題の解決に資する研究	技術的課題の画期的な解決を目指す研究	政策横断的な視点から道路行政の新たな政策領域を提案する研究
年間限度額	応募にあたっては提案研究内容に応じた適正な予算額を積み上げ、計上願います（研究経費の適切さは審査対象になります）。なお、年間限度額は下記の通りです。		
	2,000万円／年 (要素技術の研究開発を主体とする研究テーマ、及び文献調査、データ収集・分析、ヒアリング、事例研究等を主体とする研究テーマにも対応できるよう、500万円/年程度の研究も募集します。)	5,000万円／年 ※提案内容が従来の技術開発には類のない革新的な内容であることから、研究の本格採択にあたり事前に実行可能性や具体的方途等について検討・分析を行う必要があると、会議において判断される場合、単年度で500～1,000万円程度の革新的研究調査(FS)を実施して頂くことがあります。	1,000万円／年 (要素技術の研究開発を主体とする研究テーマ、及び文献調査、データ収集・分析、ヒアリング、事例研究等を主体とする研究テーマにも対応できるよう、500万円/年程度の研究も募集します。)
革新的研究調査(FS)	提案者自らの判断に基づき、提案内容が従来の技術開発には類のない革新的な内容であることから、研究の本格採択にあたり事前に実行可能性や具体的方途等について検討・分析を行う革新的研究調査(FS)の実施案件として応募頂くことも可能です。なお、FSの年間限度額はタイプに応じて単年度で100～1,000万円程度とします（1年後に研究課題の本格採択の是非を審査します）。		
研究期間と評価	平成21年度から1～3年間以内（最終年度に継続も検討）。なお、革新的研究調査(FS)の実施期間は1年間とします（1年後に研究の本格採択の是非を審査）。 会議は、研究テーマについて、研究期間終了後に事後評価を実施するとともに、毎年度、研究の進捗や見直し、研究費の配分や研究継続の妥当性などについて中間評価を行い、次年度以降の研究費の適正化をはかります。 また、複数年度にまたがる研究は、毎年度、新道路技術会議において評価を行い、成果の見込みがないと判断されたものについては、打ち切ります。検討の結果、大きな成果が認められるものは当初の研究期間を越える継続も検討します。 研究期間終了後には研究成果に関する報告会を開催するとともに、優れた研究成果を上げた研究開発について表彰します。		

4. 審査基準

○審査

国土交通省道路局に設置する新道路技術会議が下記の審査基準に基づいて提案内容の審査を行います。

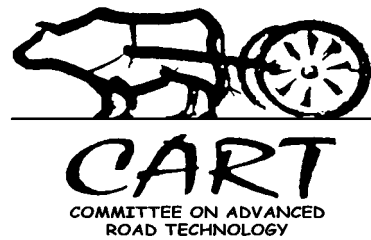
○審査基準

提案された研究について、「創造性」、「実現性」、「研究体制」の3つの観点から総合的に審査します。審査の途中でヒアリングを受けて頂く可能性があります。また研究のタイプにより3つの観点の重み付けが異なります。なお、提案者自らの判断による革新的研究調査(FS)応募については創造性の観点のみにより評価します。

	創造性	実現性	研究体制
タイプⅠ	30%	50%	20%
タイプⅡ	40%	40%	20%
タイプⅢ	60%	20%	20%

「新道路技術会議（委員長：中村英夫 武蔵工業大学学長、東京大学名誉教授）」は、道路政策に関わる専門家14人で構成される会議です。道路政策の質の向上に資する技術研究開発が行われることを応援します。

詳細は HP (<http://www.mlit.go.jp/road/tech/index.html>) をご覧下さい。



新道路技術会議 委員名簿

- 委員長：中村 英夫 武蔵工業大学学長 東京大学名誉教授
- 委員：赤羽 弘和 千葉工業大学 教授
- 委員（ソフト分科会長）
- ：家田 仁 東京大学大学院 教授
- 委員：太田 和博 専修大学 教授
- 委員：小澤 一雅 東京大学大学院 教授
- 委員：川島 一彦 東京工業大学大学院 教授
- 委員：川嶋 弘尚 慶應義塾大学 教授
- 委員：佐々木 葉 早稲田大学 教授
- 委員：柴崎 亮介 東京大学 空間情報科学研究センター長
- 委員：竹内 健蔵 東京女子大学 教授
- 委員：中越 信和 広島大学大学院 教授
- 委員（委員長代理・ハード分科会長）
- ：三木 千壽 東京工業大学大学院 教授
- 委員：吉川 正嗣 (社)建設コンサルタンツ協会
- インフラストラクチャー研究所 主任研究員
- 委員：吉田 明 (社)日本土木工業協会 広報委員会副委員長

(敬称略、五十音順)